

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間) ・ 最終)

川尻中学校区 校番 18 学校名 呉市立川尻中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
<p>確かな学力</p>	<p>① 基礎学力の定着を図る</p>	<p>○主体的な学びへの授業改善</p> <p>○家庭学習の習慣化</p>	<p>○「川尻中学校区授業モデル」、川尻中学校版「学びの変革」授業参観シートを活用し、子どもの問いを生かした「考える授業」づくりに取り組んだ。今回は達成値81.8%となり、昨年度より上がり、目標を達成した。</p> <p>○タブレット等のICT機器の効果的な活用については、達成値100%となった。タブレット等の効果的な活用について、引き続き教員のスキルアップを行っている。</p> <p>●宿題の提出率は達成値が89.2%となり、目標の95%に達しなかった。どの教科においても、提出しにくい生徒が固定化しているが、学年が上がると共に改善が見られるので、引き続き家庭学習の定着を目指した指導を粘り強く行っていく。</p> <p>○中間・期末テスト5教科で30点未満の生徒は全体で12.6%と目標値を達成することができた。</p>	<p>・小中一貫教育合同研修、校内授業研究を計画的に行い、授業改善に関する取組を小中で連携していく。</p> <p>・研修会の参加を促し、そこで得られたスキルを校内で共有する機会を定期的に持つ。</p> <p>・引き続き提出状況を生徒・保護者に定期的に示し、実態に応じて、担任と保護者が連携をとる。また、週1回の川中タイムを利用し、遅れてでもやりきらせるよう個別指導していく。</p> <p>・授業改善を充実させるとともに、川中タイムでは、引き続きQubena等を活用し、個人個人の基礎学力の定着を図る。</p>
<p>豊かな心・健やかな体</p>	<p>② 自己指導能力を育成する</p> <p>③ 健康的な生活習慣の確立と体力向上を図る</p>	<p>○生活規律・学習規律の定着</p> <p>○夢や目標への挑戦</p> <p>○自尊感情の向上</p> <p>○防災の意識を高める</p> <p>○体力の向上</p> <p>○食育の推進と体力向上</p>	<p>○授業の初めに4動作の挨拶を行っている割合は、95.2%と目標値90%を上回っている。(昨年度は91.5%)</p> <p>○きちんとできていなかった際にやり直し等を行った。</p> <p>●教員と生徒の意識のずれがある。</p> <p>●夢や目標を持っている生徒の割合が全体で77.4%と目標値を下回った。(昨年度は81.2%)</p> <p>●総合的な学習の時間や学級活動、特別な教科道徳での意識付けが弱い。</p> <p>●ボランティア活動に参加したことがあると答えた生徒の割合は42.5%と目標値の90%を47.2%も大きく下回っている。</p> <p>○ボランティア委員会を中心に呼びかけ等を行った。</p> <p>●ボランティアを部活動単位で行うものがあること。</p> <p>○災害時に避難する場所や、仕方について理解している生徒の割合は95.2%と目標値の80%を15.2%上回っている。</p> <p>○各学年で防災教育、また避難訓練時に地域の方等と連携をするなどの取り組みを行った。</p> <p>○運動やスポーツが好きな生徒の割合は、目標80%に対して80.8%であった。生徒が楽しいと思える授業づくりや目標を考えさせる活動を行ったことによるものと考えられる。</p> <p>○12時50分までに配膳完了した割合は、4月89%、5月91%、6月97%、7月96%と徐々に上がってきている。</p> <p>●エプロンを忘れた生徒は、運搬をすることができず特定の生徒が繰り返し運搬するので時間がかかる時がある。</p>	<p>・委員会を中心に主体的に取組を行っており、生徒も意識して4動作の挨拶を意識して行っている。今後も継続して取り組む。</p> <p>・総合的な学習の時間や学級活動での学習を通して、将来の自分の生き方を考える場面を設定することにより、夢や目標を持てるよう促していく。</p> <p>・ボランティア委員会より引き続き募集をかける。</p> <p>・3年生のボランティアの機会を設ける。</p> <p>・後期も避難訓練等あるので、引き続き命を守る大切さを伝えながら行っていく。</p> <p>・保健体育の授業や部活動等において、学校全体で生徒が主体的に取り組めるよう、生徒に自己決定させたり、授業等で話し合い活動を充実させていく。</p> <p>・4時間目の授業者の給食当番への声掛けや、給食当番以外の保健体育委員の援助活動を促していく。特定のクラスが遅いが、給食当番の人数を増やす等改善していく。</p>
<p>信頼される学校</p>	<p>○教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備</p> <p>○生徒と向き合う時間の確保</p> <p>○長時間業務の削減</p>	<p>○生徒と向き合う時間の確保</p> <p>○長時間業務の削減</p>	<p>●生徒と向き合う時間が確保されたと感じる教員は84.6%であった。昨年度の中間期達成値は100%であったことから、15.4ポイント減少している。新規採用教員の授業時数が比較的多いことに加え、初任者研修が月1～2回実施されるとともに、研修日の授業時数がその他の日に加わり、教材研究・授業準備に追われる状況が見られた。</p> <p>○4月～8月の期間、時間外勤務平均時間28時間14分であった。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、通常の行事等が再開されたが、昨年度の中間期(33時間32分)に比べ、1人当たりの平均時間が約5時間18分減少している。年度当初より、日報をタブレットで配信、保護者アンケートをタブレットで実施、業務の簡略化、分掌業務の見直しを行い、全体の時間短縮につながってきた。</p>	<p>・新規採用教員の初任者研修時の授業実施のための後補充教員が1学期途中から割り当てられ、少しはあるが空き時間が増加した。今後も、初任者研修・分掌の効率化を図っていく。</p> <p>・業務の精選に加え、教職員の職務への意識改革(優先順位、業務の重点化、見直しを持った業務遂行)を図っていく。また、主任・主事を中心とした連絡・調整を素早く行い、組織的に生徒と向き合える時間の確保を行っていく。</p>